

無名建築の再価値化 生残・解放可能性

どのような建築を現代において考えるか。建築の扱いに混乱する現代に建築に触れ、歴史を知り、これから作品を表現する私の、建築の価値を考える提案である。

盛岡に現存する二種の無名建築、明治37年竣工の第一乾草倉、その4年後、明治41年竣工で、1km離れた第三農機具庫が、私の提案の対象である。農商務省の異なる施設に建てられた二種の覆馬場は、小屋組トラスの構成が近似している。加えて、竣工の4年の差によって見られる、相違点による学習可能性にも、価値を見出す。

まず二種の近似点は、吊束への鋼材の使用、外壁から突出する飛柱や、寸法にまで至る。続いて二種の相違点。

第一乾草倉は均一なスパン、せいり大きな木材を継いだ小屋梁など、明治後期の最先端技術と言えるデザインが見られる。しかし、現在は放置され、ただ解体を待つのみである。第三農機具庫は、不揃いなスパン、鋼材の小屋梁中央部への合理的な使用など、盛岡の職人の限られたデザインで、第一乾草倉を真似て建てたと考えられる。現在も利用され、手を加えられながら建っている。

私はこの近似し、相違する無名建築が二種現存することで、互いの建築の価値を高めようとする。

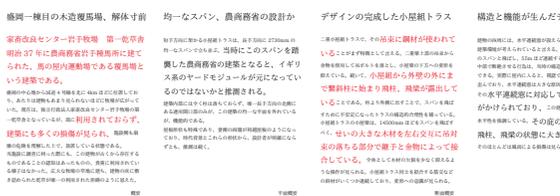
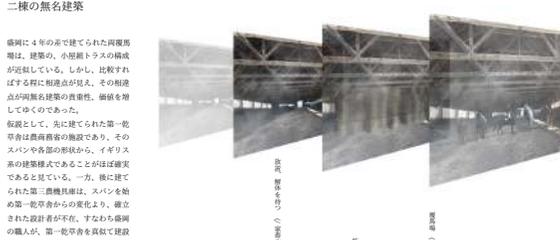
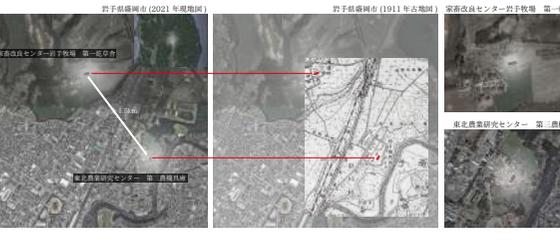
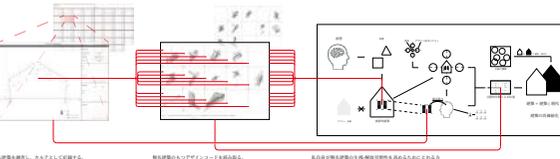
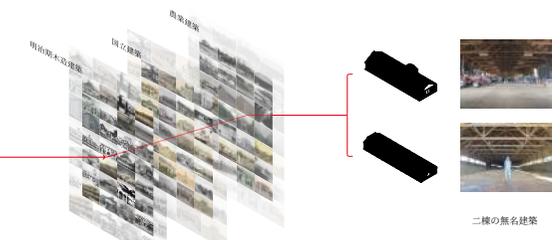
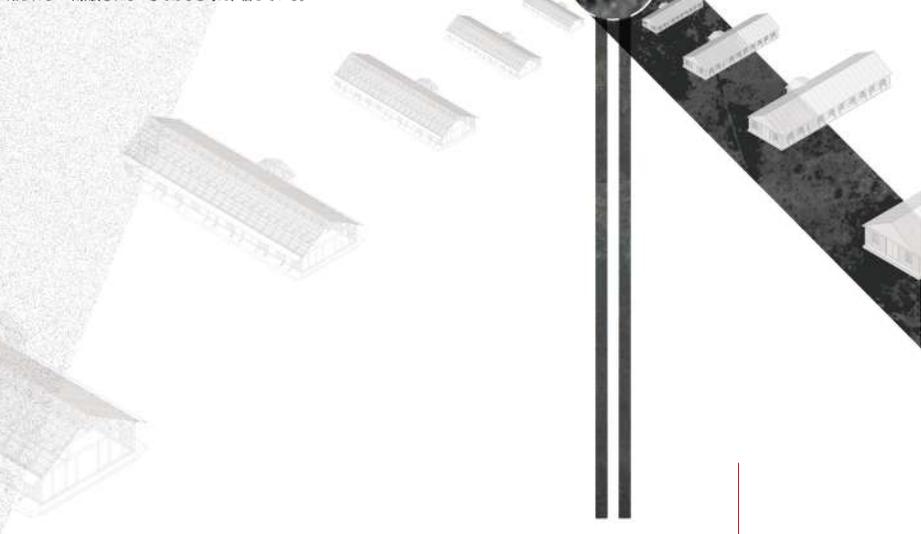
調査から、現状を記録するカルテや、それぞれの建築のデザインコードを読み取り、私のデザインを行う。

第三農機具庫の補強と第一乾草倉の移築、覆屋の新築は、二種が存在することの価値を示し、当時から盛岡の建築技術をも学習可能とする。

価値ある二種の無名建築を、生き残らせ、開いてゆく可能性を考えた。

私が修士課程まで建築に触れ、そしてこれからも建築に触れ、自らの作品を表現することを考え、私の思う現代の建築を考えている。建築の価値を考える数々の作品が見られる。保存、復元、補強、移築、解体、価値を考えて行われるデザインに正解などなく、対象の建築毎に、扱う建築家毎に異なるデザインがなされている。これら更に広がり、増え続ける建築の価値を考えるデザインに、一つ、私のデザインを表現する。

学習可能な建築こそが、ものの寿命などを越えて生残する価値を認められ、無名建築であろうと人々に知られるべく解放されるべきであると考え、信じている。



○無名建築の発見

○二種の無名建築と小屋組トラスの共通

○再価値化の方法論

○二種の無名建築

○二種の無名建築と小屋組トラスの共通

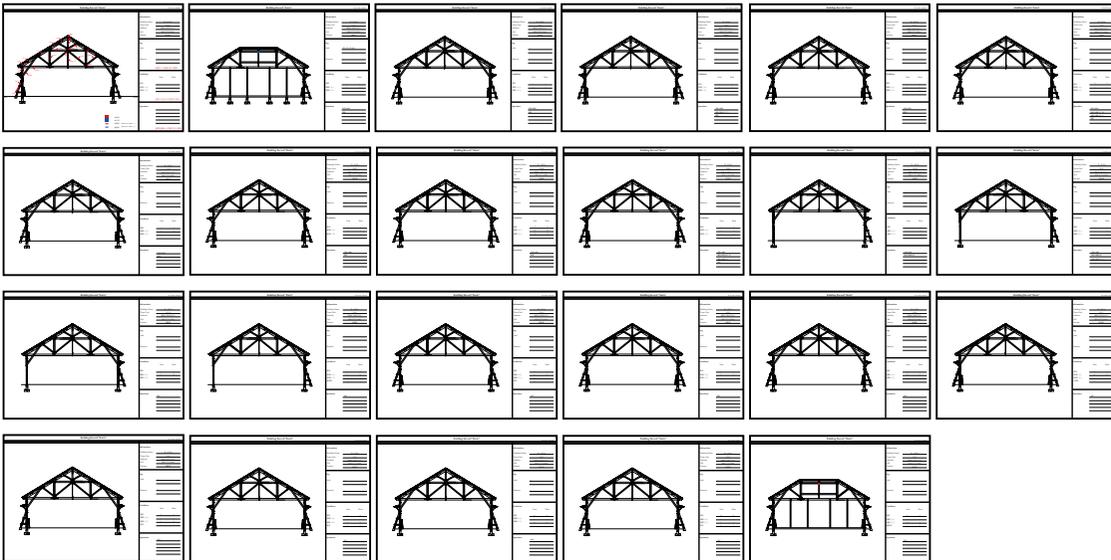
○二種の無名建築

建築名称	概要	建築的価値	建築的価値
"第一乾草倉"	明治37年竣工。均一なスパン。せいり大きな木材を継いだ小屋梁など、明治後期の最先端技術と言えるデザインが見られる。	均一なスパン、せいり大きな木材を継いだ小屋梁など、明治後期の最先端技術と言えるデザインが見られる。	均一なスパン、せいり大きな木材を継いだ小屋梁など、明治後期の最先端技術と言えるデザインが見られる。
"第三農機具庫"	明治41年竣工。不揃いなスパン、鋼材の小屋梁中央部への合理的な使用など、盛岡の職人の限られたデザインで、第一乾草倉を真似て建てたと考えられる。	不揃いなスパン、鋼材の小屋梁中央部への合理的な使用など、盛岡の職人の限られたデザインで、第一乾草倉を真似て建てたと考えられる。	不揃いなスパン、鋼材の小屋梁中央部への合理的な使用など、盛岡の職人の限られたデザインで、第一乾草倉を真似て建てたと考えられる。

建築名称	概要	建築的価値	建築的価値
"第一乾草倉"	明治37年竣工。均一なスパン。せいり大きな木材を継いだ小屋梁など、明治後期の最先端技術と言えるデザインが見られる。	均一なスパン、せいり大きな木材を継いだ小屋梁など、明治後期の最先端技術と言えるデザインが見られる。	均一なスパン、せいり大きな木材を継いだ小屋梁など、明治後期の最先端技術と言えるデザインが見られる。
"第三農機具庫"	明治41年竣工。不揃いなスパン、鋼材の小屋梁中央部への合理的な使用など、盛岡の職人の限られたデザインで、第一乾草倉を真似て建てたと考えられる。	不揃いなスパン、鋼材の小屋梁中央部への合理的な使用など、盛岡の職人の限られたデザインで、第一乾草倉を真似て建てたと考えられる。	不揃いなスパン、鋼材の小屋梁中央部への合理的な使用など、盛岡の職人の限られたデザインで、第一乾草倉を真似て建てたと考えられる。

無名建築記録 カルテ

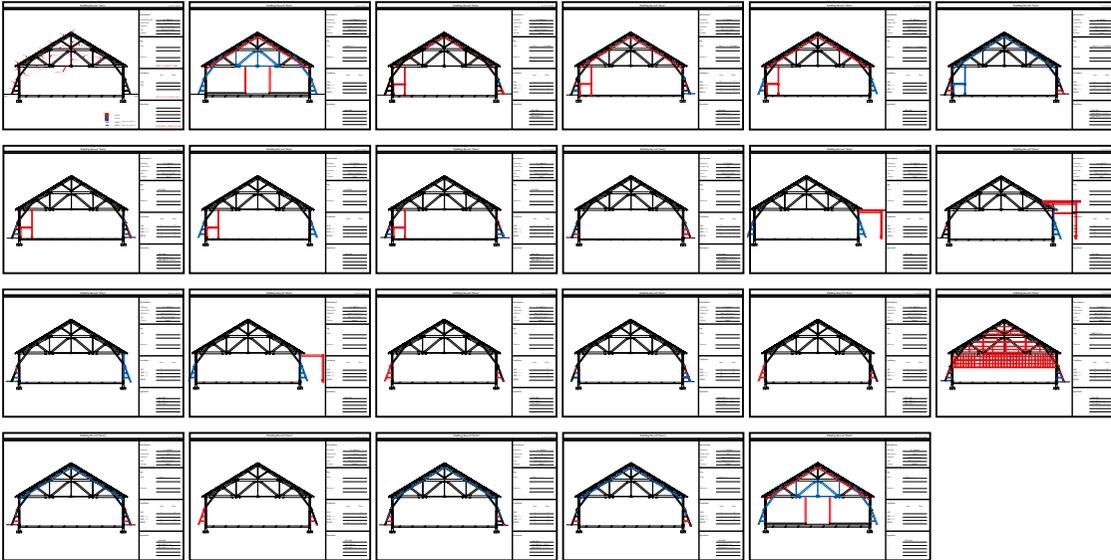
第一乾草舎



小屋組トラスの1フレームを単位として、実測調査から描いた断面図を基準に、無名建築の記録、カルテを製作した。
カルテの赤塗りは基準に対して加増部、青塗りは喪失部、赤緑部は増築部、青緑部は減築部である。カルテA-02、A-0とも内部左側に増築の柱、梁、床が、天井付近にはブレースが見られる。カルテA-02では、飛柱に大きく目の形跡や残梁の喪失が見られる。一方、カルテA-03では、飛柱下部に大きく喪失が見られる。これら各カルテに応じて、補強、移築等の判断を行う。

この設計提案において、補強や移築の抽出を行うためのカルテの製作は、更なる二棟の無名建築の理解はもちろん、約110年生き残された建築を知ることであり、現代において私にどのような操作が行えるのか、行って良いのかを真剣に考えるきっかけとなった。無名建築の現状をカルテとして図示し、現実の建築を相手に提案を行う。補強を行う箇所は多く、いくつかの補強の可能性を留意給必要があった。移築可能な小屋組トラスは制限され、その範囲内で二棟の無名建築の価値を再び示すための私のデザインを提案する。

第三農機具庫

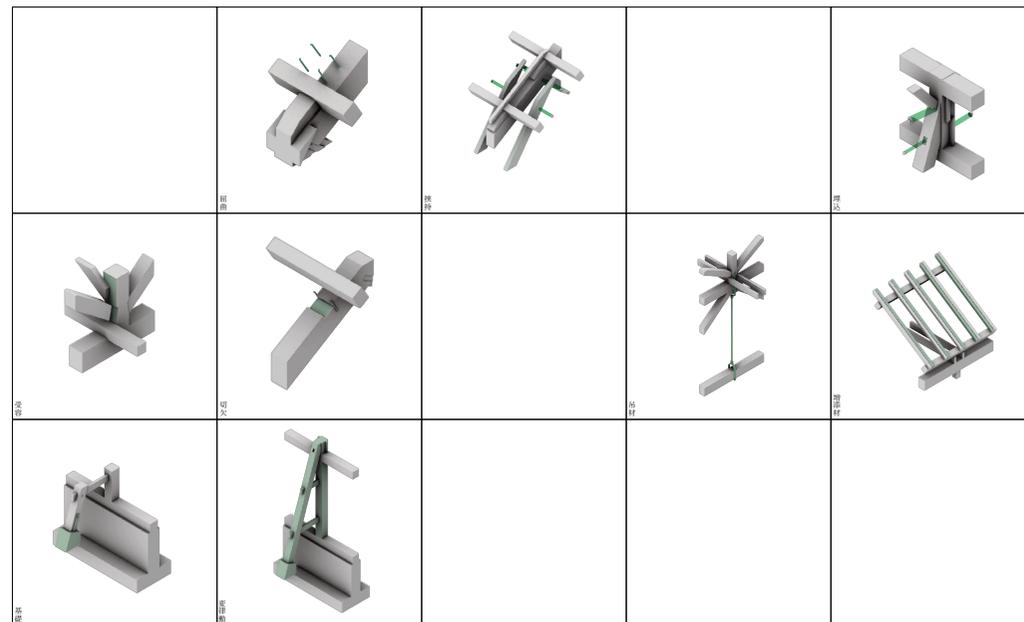


小屋組トラスの1フレームを単位として、実測調査から描いた断面図を基準に、無名建築の記録、カルテを製作した。
カルテの赤塗りは基準に対して加増部、青塗りは喪失部、赤緑部は増築部、青緑部は減築部である。カルテA-02、A-0とも内部左側に増築の柱、梁、床が、天井付近にはブレースが見られる。カルテA-02では、飛柱に大きく目の形跡や残梁の喪失が見られる。一方、カルテA-03では、飛柱下部に大きく喪失が見られる。これら各カルテに応じて、補強、移築等の判断を行う。

この設計提案において、補強や移築の抽出を行うためのカルテの製作は、更なる二棟の無名建築の理解はもちろん、約110年生き残された建築を知ることであり、現代において私にどのような操作が行えるのか、行って良いのかを真剣に考えるきっかけとなった。無名建築の現状をカルテとして図示し、現実の建築を相手に提案を行う。補強を行う箇所は多く、いくつかの補強の可能性を留意給必要があった。移築可能な小屋組トラスは制限され、その範囲内で二棟の無名建築の価値を再び示すための私のデザインを提案する。

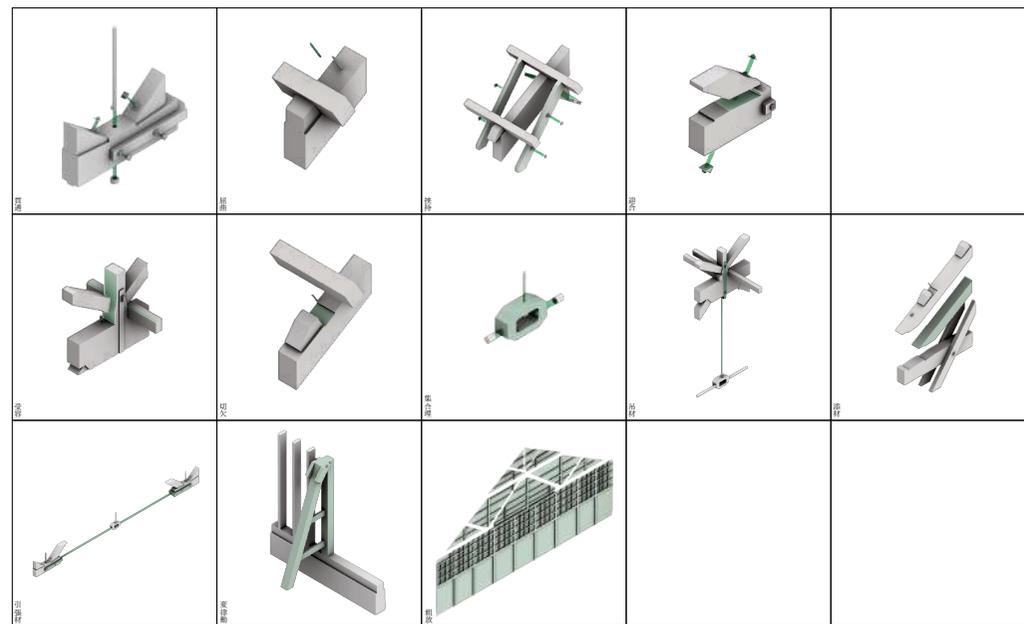
無名建築記録 デザインコード

第一乾草舎



建物のデザインコードを読み取る。建築全体を構成するその部分を集め、普遍的なものであろうと、集合してこの建築の意味を示す。第三農機具庫と近似するもの、相違するものが見られることに価値を見出す。これらのデザインコードは、第一乾草舎の移築、補強と、新築する復元のデザインに一部踏襲される。すなわち、一部は踏襲せずに、既存の状態との差異をつくり、既存を引き立てるようなデザインや矛盾した部分を見せる。

第三農機具庫



建物のデザインコードを読み取る。建築全体を構成するその部分を集め、普遍的なものであろうと、集合してこの建築の意味を示す。第一乾草舎と近似するもの、相違するものが見られることに価値を見出す。これらのデザインコードは、第三農機具庫の補強にほぼ完全に、また新築する復元のデザインに一部踏襲される。すなわち、一部は踏襲せずに、既存の状態との差異をつくり、既存を引き立てるようなデザインや矛盾した部分を見せる。

